

別紙

開発肥料株式会社竹原工場 温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

開発肥料株式会社 竹原工場

(2) 事業所の所在地

広島県竹原市福田町東新畑295番地

(3) 業種

その他の化学肥料製造業（1619）

2 計画の期間

本計画の期間は、平成22（2010）年度を基準年度とし、平成23（2011）年度から平成24（2012）年度までの2年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：生産量（t）

温室効果ガスの種類	基準年度の実績(a)	目標年度 上段：目標(b) 下段：削減率(c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d), 下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成22年度	平成24年度	平成23年度	平成24年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度
エネルギー 起源CO ₂	0.4882	0.4858 0.5	0.4819 1.3	0.4903 -0.43			
非エネルギー 起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
温室効果ガス 総排出量	0.4882	0.4858 0.5	0.4819 1.3	0.4903 -0.43			
エネルギー消費 原単位（原油換 算kl）	181.2		178.6 1.4	186.2 -2.76			
実績に対する 自己評価	<p>基準年度に比べて、平成23年度はエネルギー起源CO₂を原単位ベースで1.3%削減できたが、平成24年度は0.43%増加した。</p> <p>《原単位増加の原因》 当社商品（けい酸加里肥料）は、微粉炭燃焼灰と塩基性のカリウム他を混合・造粒し、焼成したものであるが、平成24年度は石炭産地の変化に伴い石炭灰の性状が変化したことから、けい酸加里肥料の品質保証値を確保するためには、原料投入量を減量し、高温で焼成しなければならなかったため、灯油使用量の増加及び製品歩留まりが低下した。また、製造銘柄変更により安定製造が出来なかった期間もあったことから、原単位が増加した。</p>						

削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100

削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	灯油、軽油、電力の使用量の原単位は基準年度に対し、 ・平成23年度：計1.30%削減 ・平成24年度：計0.43%増加	・焼成熟風炉の最適空気比の設定 ・最適焼成温度の検討
2	電気使用量の削減		・平成24年度にて、停止可能なブロワを検討し、ブロワ3台の停止運用が可能となった。 ・休憩時間、照明不要箇所の消灯の徹底
3			
4			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	コピー用紙使用量削減	コピー用紙使用量 前年度実績比10%以上削減	・両面コピー、裏面利用等 ・集計表を毎月掲示
	事務用品グリーン調達の推進	グリーン調達率75%以上	・集計表を毎月掲示

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。